

呼吸器内科

医 長： 藤原 慶一, 佐藤 賢

「呼吸器内科の概要」

呼吸器専門医／指導医(日本呼吸器学会), 気管支鏡専門医／指導医(日本呼吸器内視鏡学会), がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)である常勤医師と呼吸器内科レジデント／内科専攻医が診療に当たっています。岡山医療センターには, 呼吸器科領域全般の多岐にわたる症例が県内外より集まっており, 常時 40～60 人の入院患者, 年間 1000 人を超える新規入院患者数となっています。中でも肺癌は毎年約 150 人の新患が入院治療を受けています。病棟は呼吸器内科と呼吸器外科とが同じフロアで診療しているため, 疾患に応じてシームレスで円滑なチーム医療が達成されています。外来は休みなく毎日行っており, 1日に 40～50 名の患者が来院しています。呼吸器内科は 24 時間オンコール体制を組んでおり, 呼吸器インターベンションを含む高度な最先端の医療を提供しています。

「研修の目的と特徴」

基礎的な呼吸器の所見の取り方やマネジメントを学ぶとともに, 比較的ポピュラーな気管支肺炎, 気管支喘息のみならず, 肺癌をはじめとする各種悪性腫瘍に対する集学的治療やびまん性肺疾患に対する VATS を含めた診断・治療といったきわめて専門性の高い診療, さらに硬式気管支鏡を用いた気管・気管支ステント留置術やシリコンを用いた気管支充填術, 中枢気道の閉塞性病変に対する高周波焼灼やアルゴンプラズマコアギュレーションによる止血処置など最先端の呼吸器インターベンションの見学も可能です。岡山医療センターでは放射線画像の大部分はデジタル化されており, 320 列および 64 列 MDCT (マルチスライス CT) をはじめとする最新の撮像機器を用い, MPR や 3-D 画像を駆使した診断も可能となっています。特に MDCT より得られたボリュームデータを基に作製した仮想気管支鏡を用いて, 気管支鏡検査の精度を高めるとともに, 研修医の教育に役立てています。

「教育方法」

- 主要症候の理解と理学的所見の習得
 - 理学所見からの疾患の推定
 - 検査計画の立案
- 基本的手技の習得
 - 動脈血ガス分析
 - 気管支鏡検査
 - 胸腔穿刺, 胸腔ドレナージ
 - 中心静脈カテーテル (CV) および末梢挿入型中心静脈カテーテル (PICC) の挿入
 - 気管内挿管
- 画像診断の習得
 - HRCT, MDCT, MRI, PET-CT 等を用いた画像診断

- 呼吸器疾患の治療法の理解と実践
 - 肺癌に対する治療: 化学療法(分子標的薬, 免疫チェックポイント阻害剤を含む), 放射線療法, 手術療法等
 - 感染性肺炎に対する治療: 適切な抗菌剤の選択, 起炎病原体の推定など
 - 非感染性肺炎に対する治療: ステロイドパルス療法, 免疫抑制剤を用いた治療など
 - 呼吸不全に対する在宅酸素療法(HOT)の導入
 - 喘息重積発作に対する治療: ステロイド吸入療法や生物学的製剤を用いた治療
 - ベンチレーターによる管理: 重症呼吸器疾患における呼吸管理・合併症対策など
 - 呼吸リハビリテーション
- 全人的な診療の習得
 - 肺癌等の悪性疾患の告知, 精神的ケア
 - 緩和医療: 麻薬による疼痛コントロールなど

「研修に関する行事」

行事	曜日	時間
モーニングカンファレンス	月・水・金曜日	8:00-8:30
気管支鏡検査	月・水・金曜日	13:00-15:00
胸部画像カンファレンス(合同)	毎月第2, 4月曜日	18:30-19:30
呼吸器薬剤勉強会	木曜日	18:00-18:30
抄録会	毎月第2, 4月曜日	17:30-18:30

「修練目標と評価法(必須習得/体験疾患,手技数の明示)」

疾患名	経験すべき手技と習得すべき知識	経験例数
感染性肺炎	痰のグラム染色, 抗菌薬の選択	5例
肺癌	画像診断, 気管支鏡検査, 抗癌剤の投与	5例
非感染性肺炎	画像診断, 気管支鏡検査, パルス療法など	2例
気管支喘息重積発作	酸素療法, 呼吸管理	1例
慢性呼吸不全	在宅酸素療法の導入, 薬物療法	1例
重症呼吸不全	ベンチレーター使用法, 薬物療法	1例

「評価」

- ・ 研修医の評価: 院内の研修マニュアルに従って上記症例・検査手技を最低限経験した後に EPOC により自己評価, 指導医による評価を行う。
- ・ 指導医の評価: 自己評価と研修医による評価を行い, 臨床研修委員会にて審議の後, 指導医に還元する。
- ・ 研修プログラムの評価: ローテーション中の問題点に関し, 臨床研修委員会にて審議する。